

御馬下の角小屋

この建物は、江戸時代に庄屋を務めるかたわら質屋・酒屋を営んだ堀内家の住宅であるとともに、参勤交代の折に豊前街道を往来する細川・島津などの大名が、休息所として使用していました。堀内家は「先祖附」によると、出雲国松江城主の家臣であったが、禄を失い諸国を放浪、元禄年間(1700年頃)に御馬下村に居を構えたとされています。その後帰農し、御馬下村、上野村などの庄屋を務めるかたわら、質屋・酒屋を営み、在郷の商人として、その財力を背景に在御家人としてとり立てられました。また、海軍体操の創始者として知られる堀内豊秋大佐の生家でもあります。記念館には、明治維新の際に、明治新政府の参与に命ぜられた細川護美のお供をして京都へ赴いたときの記録「見聞記」や参勤交代の古文書等、江戸時代から昭和に至るまでの堀内家の記録が、当時の暮らしを今に伝える道具類とともに数多く残されています。現在、熊本市有形文化財として指定されています。



参観案内

開館時間 午前9時30分～午後4時30分まで
 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始
 入館料 高校生以上200円・小中学生100円
 (市内の小中学生及び65歳以上は無料)
 所在地 熊本市北区四方寄町1274
 TEL・FAX 096-245-2963
 所管 熊本市中央区手取本町1-1
 熊本市文化財課
 TEL 096-328-2740



記念館の土地・建物は、昭和60年に堀内家より北部町(平成3年2月熊本市と合併)に寄贈されました。約200年を経過して傷みがひどかったため復元改修をし、昭和62年12月1日より文化財として一般公開しています。

御馬下の角小屋



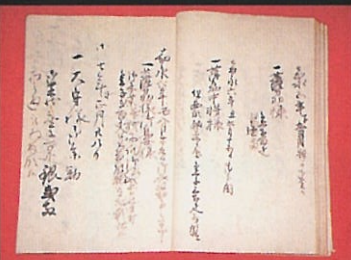
熊本市文化財課

江戸時代の商家の木造建築

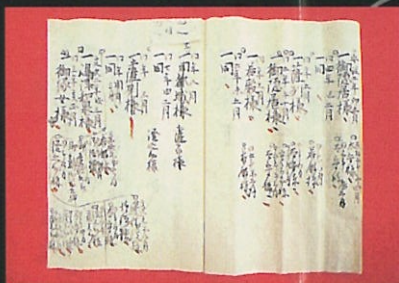
この建物は、江戸時代後期の文化6年(1809)に建てられたといわれています。建物の内部は、大名などの休息の際に使われた、御成の間・次の間・御用人の間などの部分と、店・茶の間・中などの商家としての部分とに分かれていて、現存する江戸時代の建物として他に余り例のない貴重なものです。高い木組みの吹き抜け天井、年を経て、つやびかりする見事な大黒柱、用材、それに施した家運繁盛の打出の小槌などの木象眼、藩公を迎え入れた御成の間など、一步建物の中に入ると現代人が忘れ去った、日本古来の木造建築の良さが目を引きまします。



●邸内●



●古文書●



参勤交代の道

参勤交代は、全国支配者としての将軍の權威を高め、大名の財政負担を大きくすることで幕府への反抗を防ぐという有効な幕府の大名統制策でした。参勤交代の道となった街道は水陸交通の整備や宿場の発展をもたらした。諸大名が参勤交代に用する莫大な費用は経済の活性化や文化の交流に大きな役割を果たしました。

豊前街道は、肥後藩・薩摩藩等が参勤交代のとき利用した道で、熊本札の辻を起点として、新一丁目御門～二の丸御門～筑後・筑前～豊前小倉に通じており、豊後街道・薩摩街道・日向街道と並ぶ肥後の国における重要な「街道」でした。

細川・島津などの大名はここを参勤交代などの休息所(御小休)として使用しました。薩摩藩主・島津斉彬公のお供をして、西郷隆盛も立ち寄ったといわれています。



御成の間

御成の間

大名が参勤交代の際、休息のために使用したもので、御成の間、次の間、御用人の間があります。

休息のため立ち寄るときは、藩主専用の玄関に入り、藩主と同室を許されるのは、ほんのわずかの人で、部屋内部もそれにふさわしい豪華なものでした。



●細川韶邦公参勤交代御行列●

四方寄六地藏

御馬下の角小屋の前(道路側)にある六地藏は竿石が長く15世紀後半から16世紀半頃の形態で戦国時代のものと思われます。

六地藏とは、石仏の一種で、悩み、苦しみ、に救済の手を伸ばしてくれる菩薩として六体の地藏菩薩を祀る風習が行われました。彫つてある地藏尊像は、半肉彫りで雲に乗る(一般的には蓮華座に乗る。)珍しい姿であり貴重なものです。

庚申塔は、塔身正面に線刻され、中央に鬼を踏みつけた青面金剛像、その左右下に二人の童子が向い合って侍立しています。



●六地藏●